

< 議案について >

石田 秀三議員 (日本共産党)

議案第1号、第29号に反対 その他議案は賛成

議案第1号は、学校トイレの洋式化や老朽校舎の建て替え、ICT化の推進など教育予算の充実、新しい市民の足・公共交通システムの試行など、市民のための施策は評価するが、市民に個人番号(マイナンバー)カードを持たせる

ため、令和2年度の普及目標を6万枚とし、戸籍住民課に特別の体制を作ることに反対。議案第29号は、文化会館の施設整備に民営化のためのPFI手法を導入する調査を行うことに反対。すでにリニューアル工事が完了した市民会館や体育館、市内各地の文化スポーツ施設と異なる運営形態にすることは、市の文化スポーツ行政をちぐはぐにしてしまう恐れがある。

池上 茂樹議員 (公明党)

全議案に賛成

小学校2校のトイレの洋式化は、これまで要望してきたもので、評価する。大規模災害時の収容避難所となる小学校は、要援護者も利用することから、今後もトイレの洋式化の整備をお願いする。また、生活困窮者自立支

援事業費は、トレーニングカフェSprout・認定就労訓練事業所への委託料で、引きこもりやニートなどに対し、就労訓練を経て、一般就労につなげる事業であり、ユニバーサル就労への一歩として、これまで公明党が主張してきたことであり、評価する。今後、対象者の把握と就労先企業の開拓を進め本市で就労訓練ができるよう施設整備を提言する。

中西 大輔議員 (無所属)

全議案に賛成

議案第9号 基本構想の変更について、地域づくり政策に責任を持つ取り組みを。

議案第20号 国民健康保険条例の一部改正について、ここ数年賦課限度額引き上げが続いており、柔軟な対応の検討を。

議案第1号 令和2年度一般会計予算について、4年間での財源不足が予想された財政見通しとの関係は理解。新型コロナウイルスの影響など、予算編成の背景が変わり見直しは必至。予算執行の過程で、課題への迅速な対応、市独自の財政出動や、出口戦略の検討を期待。若い世代の参画と合意形成を多様な手法で実施を。市議会も影響に対応する考えを持つべき。

野間 芳実議員 (自由民主党鈴鹿市議団)

全議案に賛成

議案第1号について、以下の意見を述べる。

鈴鹿市体育協会等補助について、鈴鹿市体育協会に対し、例年1,400万円を超える補助金とスポーツ教室運営などに係る委託料などを支出している。補助金は、スポーツ振興事業

などとして市民に還元されることを目的としているが、繰越金が3,000万円を超える額となり、今回、体育協会から、ジュニアの強化や育成など、スポーツ振興として市民に還元していくことが示されたところである。多額の補助金支出に対し、対象団体における事業の進捗状況と適切な資金管理について、これまで以上に厳格な審査ができるよう要望する。

明石 孝利議員 (鈴鹿太志会)

全議案に賛成

令和2年度一般会計予算において、教育予算が過去5年間で最も多い予算額となっており、その内訳は学校トイレの洋式化や教育ICT化への取り組み、また令和元年度補正予算でもGIGAスクール構想推進費を組み入れ、大い

に評価できる。しかし今日の緊急事態である新型コロナウイルス感染症対策において、3つの疑問を呈する。1つは即時対応可能な予備費を使わずに、なぜ議会の承認が必要な補正予算としたのか、2つがなぜ次年度への繰越明許費としたのか、3つがなぜ対策費の事業内容を細分化し、固定化したのかなどについて意見を述べ、全議案に賛成。